

会 議 録

□全部記録 ■要点記録

1 会議名	第2回 姫路獨協大学在り方審議会
2 開催日時	令和3年10月22日(金) 14時00分～17時45分
3 開催場所	姫路キャッスルグランヴィリオホテル3階 錦の間
4 出席者又は欠席者名	〔出席者〕 姫路獨協大学在り方審議会委員 15人 兵庫県中播磨県民局 1人 〔関係者〕 姫路獨協大学 1人、摂南大学 1人 〔事務局〕 政策局高等教育・地方創生担当理事、高等教育室長、高等教育室係長 2人
5 傍聴の可否及び傍聴人数	傍聴人 9人
6 議題又は案件及び結論等	1 開 会 2 挨 拶 3 議 事 (1) 姫路獨協大学からの補足説明について (2) 薬学部を取り巻く国の動きと姫路獨協大学薬学部の現状について (3) 全国の私立大学の事例について (4) 財政シミュレーションの前提条件について (5) アンケートの取り扱いについて 4 その他 5 閉 会
7 会議の全部内容又は進行記録	詳細については別紙参照

事務局	<p>1 開 会</p> <p>第2回姫路獨協大学在り方審議会を開会する。</p>
理事	<p>2 挨拶</p> <p>(政策局高等教育・地方創生担当理事挨拶)</p> <p>本日はご多用の中、第2回姫路獨協大学在り方審議会にご出席いただき感謝申し上げます。審議会委員の皆様におかれては、8月に開催した第1回姫路獨協大学在り方審議会において、熱心にご議論いただき、また、キャンパスの視察にもご参加いただき重ねてお礼申し上げます。</p> <p>さて、皆さまもご存じの通り、18歳人口の減少が加速する中、地方大学を取り巻く環境は大変厳しいものとなっている。日本私立学校振興・共済事業団の調査によると、今春、入学者が定員割れした4年制の私立大学は46.4%で、前年度より15.4ポイント増加したという結果であった。18歳人口が大幅に減少したことに加え、新型コロナウイルスの影響で留学生が減ったことなどが主な理由として挙げられている。</p> <p>このような状況も踏まえつつ、第1回に引き続き、姫路獨協大学の今後の在り方について、公立大学法人化だけではなく、事業譲渡や廃校も含め、多角的な視点でご議論をいただきたい。限られた時間ではあるが、委員の皆さまには、忌憚のないご意見を賜りますようお願いし、私の挨拶としたい。</p>
会長	<p>3 議 事</p> <p>(1) 姫路獨協大学からの補足説明について</p> <p>姫路獨協大学からの説明を求める。</p>
姫路獨協大学	<p>譲渡に係る検討内容について、獨協学園が大学譲渡にあたって考慮した点をまずは申し上げたい。平成19年以降、他大学への譲渡についても検討を行ったが、その際、考慮すべき主な点は次の通りであった。1つ目は文系と医療系の一括譲渡であること、2つ目は姫路市民に受け入れられる有名大学法人であること、3つ目は姫路市にキャンパスが残ること、4つ目は在學生、卒業生及び教職員の理解を得られることであった。これらの4点をすべて充足できるのかは確実ではなかったが、有名大学法人に申し出を行った経緯がある。しかし先方の事情もあり、本格的な検</p>

討には至らなかった。その後も、学校法人以外からの打診を受けたこともあるが、この時には譲渡先として適切ではないという判断をした。学園としては、近年の大学の機能分化の動向も踏まえ、姫路獨協大学が地域の大学として存続し得ることが検討する上で重要と考えており、検討を行ったが現在のところ譲渡先として適当な先は見出し得なかった。以上が、学園本部からの譲渡に係る経緯である。

次に、経済波及効果についてであるが、資料1別冊の1ページ目に要約がある。「3. 測定方法」のとおり、経済波及効果については日本経済研究所「地方大学が地域に及ぼす経済効果分析」などの先行研究のフレームワークに基づき、産業連関表を用いて産業分類別の生産誘発額を求め、経済波及効果を推計したもので、一般的に行われている先行研究のフレームワークの中で行ったものである。「2. 測定対象とする効果」にあるように、本研究で測定対象とした効果は、経済波及効果、人材供給効果、知の還元効果の3つであり、前回の審議会では、経済波及効果のデータを提示した。

また、4ページにあるように、開学から2018年度までの32年間に姫路獨協大学の立地が姫路市にもたらした経済波及効果の合計額は887億円となり、直接効果に波及倍率1.26倍を掛けて生産誘発効果887億円を算出している。直接効果は、教育・研究活動、教職員の消費、学生の消費、施設設備等で、本学が消費した金額を指し、波及効果1.26倍の根拠は32ページの図表21のとおりである。この報告書以上の詳細な説明が必要であれば、作成者に審議会で説明していただくことも可能である。

引き続き、資料1の広報関係資料、高大連携事業実績、そして高等教育修学支援の実績について説明する。まず1ページの広告費は、平成28年度から令和2年度までの金額を示しており、対経常費で比較している。経常費とは、事業活動収支の教育活動収支と教育活動外収支の合計で、恒常的に必要とされる支出の合計とご理解いただきたい。概ね1.7～1.8%前後で推移しているが、例えば、平成30年度の「看板・印刷物」が少し大きいのは電車内のつり広告で800万円程度使ったため、令和元年度の「その他」が少し大きいのはアースシネマで本学の動画のコマーシャルを流したためである。そのほか、令和2年度の「その他」が大きいのは、リクルートの企画への参画に費用がかかったことによるものである。

次に、広報活動についてであるが、学生募集のため、入試担当職員のほか、教員や事務職員が、6～7月と10～12月の2回、滋賀・和歌山・山口を除く、近畿・中国・四国地方の各高校を訪問している。令和2年度は、コロナの影響もあり、県外校への訪問を自粛したため極端に少ない数字になっている。今年度もコロナ禍の

影響を受けて同様の状況である。

2 ページの「会場入試相談会」とは、ホテルや市民会館等で業者が主催する入試説明会で、予算を考慮しながらできるだけ参加している。やはりこれも令和2年度以降はコロナ禍の影響で少なくなっている。ウは「高校内入試相談会」で、高校の依頼によって、本学の事務担当が高校で説明をするもので、これも令和2年度は少なくなっている。オープンキャンパスについても、毎年6～7回行っていたが、令和2年度はコロナの影響もあり回数を1回減らし、来場者を絞って開催した。今年度は6回開催したが、コロナ禍のため県内の3年生に限るという条件をつけたため、来場者は807名で例年に比べると少なかった。

続いて、高大連携事業の実績について、それぞれの高校からインターンシップの受け入れをしている。資料作成時点では、令和3年度2名であったが、さらに2名の参加が決定したので、令和3年度の実績は4名となる。次に、高大連携協定については、2018年度の神崎高等学校との高大連携に関する協定に基づき出張講義等を行っている。また、ウ「高校生体験実習等」にあるように、2019年度から福崎高校総合科学コース1年生及び看護医療選択の3年生を対象に体験実習等を開講している。

4 ページにあるように、令和2年度には夢前高等学校、令和3年度には神戸高塚高校の生徒を対象とした体験実習等を実施している。出張講義については、直近4年の実績を表で示しており、学校数は16、回数は23回である。その他、琴丘高校等で行われている英語スピーチコンテストには、本学の教員が毎年参加してお手伝いしている。5 ページは高等教育奨学支援の実績で、令和2年度、令和3年度ともに約1億円となっており、学生全体の1割がこの支援の対象として奨学金を受け取っている状況である。

そのほか、本学の公立大学法人化の要望書提出の記事を受けて、高校訪問時に進学指導の先生方からどんな反響があるかであるが、ほとんどの高校で興味を示されている。その中でも積極的に公立大学法人化を推進して欲しいという件数もかなり見受けられる。この審議会が始まる前で、どういう結果になるか非常に未知数であり、我々からは公立大学法人化の情報は一切提供していない状況であるが、進学指導の先生方は新聞等で情報を得て聞いてこられたようだ。姫路、西播磨、東播磨、北播磨、神戸、県外も含めて37件のレスポンスがあった。公立大学法人化をぜひとも推進して欲しいというご意見は37件のうち7件、関心があるので情報を逐一いただきたいというのが23件、情報の確認が7件で、合計37件の反応があった。

最後に、本学の今年度入試カレンダーを資料として提出している。オレンジ色

<p>会長</p>	<p>の総合型選抜のAO入試、そしてスポーツ特別入試はすでにエントリーが始まっている。AO入試、スポーツ選抜の前期後期からスタートし、学校推薦型、一般選抜と引き続き入試が行われていく。今のところ、例年とほぼ同じエントリー数で、昨年と変わらない状況である。</p> <p>大きく分けて3件の補足説明であった。入試カレンダーによると、すでに来年度の入学に向けての活動が始まっている。この審議会の内容は、入試に少なからず影響を及ぼすと考えられ、白熱した議論と公表内容にずれがないよう、報道関係者にはしっかりと報道を求めたい。</p> <p>3件のうちの1つ目の経済波及効果の項目は多岐にわたっているので、まずこの点だけに絞った質疑をしたい。</p> <p>経済波及効果が全体として一つにまとめられているが、開学からの前半と、入学者数が減少してきた最近の10年間では大きな変動があるのではないかと。</p>
<p>姫路獨協大学</p>	<p>この分析では、近々の10年間では出していない。ただ5、6ページをご覧いただくと、2018年度に収容定員を充足していた場合の経済波及効果を計算している。もちろん、定員を充足していないときにはこれよりも小さい数字になる。ご質問の、減少傾向の10年間については、計算しないと答えられない。</p>
<p>委員</p>	<p>2018年までの32年間という一括りに経済波及効果を作られているが、大学の経営状況・運営状況・学生の状況がどういうふうに変動したのか全く分からないし、この887億円は何を意味するのか全く理解できない。一方で、2018年に収容定員を充足していた場合の試算があるが、2018年のリアルな数字ではなく、なぜこんな仮の数字を出しているのか。</p>
<p>姫路獨協大学</p>	<p>本学からはほぼすべての帳簿類を提出し、算出していただいている。これは令和2年3月時点で計算しており、開学以来すべての経済効果ということである。括弧内に2018年度の実質の数字が書かれているので、それをご参考いただければ、充足していた場合と比べての差額が出てくることを補足したい。</p>
<p>委員</p>	<p>経済波及効果について、単年度ごとの浮き沈みをグラフ化するなど、もっと分かりやすい提示の仕方があるのではないかと。</p>

姫路獨協大学	それはもっともだとは思いますが、委託研究の中でそういう指示はしなかった。委託研究のため、ご指摘のようなデータとして提示するのは時間がかかると思う。この研究では、姫路獨協大学が公私協力方式で姫路市に設立されて、その効果が一体どうだったのかということを示したく 32 年間の効果を研究していただいた。
会長	大学の置かれている状況が、リアルタイムに広報活動等に反映されることは実質的にはないという解釈のように聞こえるが、どうか。30 年の一括りの中でしか活動できてないということか。
姫路獨協大学	広報活動は経常費の 2 % を超えない程度であるが、全体的な経常費が下がれば、もちろん広報費も下げざるを得ないと考える。
会長	パーセントの問題ではない。
委員	前回から第三者による公平な評価ということを強調しているが、この委託研究の委託金額と作成者の略歴を紹介してもらいたい。
姫路獨協大学	委託の金額は資料がないので分からない。作成者は、以前本学にも在籍していた教員で、その後兵庫県立大学に移り、財務会計や経済波及効果のシミュレーション等を専門としている。細かい経歴については把握していないので、本学の在籍期間を含め、次回お返事させていただく。
委員	波及倍率の件について教えていただきたい。4 ページの開学から 2018 年度までの 32 年間の波及倍率は 1.26 倍であるが、6 ページの 2018 年度の単年度波及倍率は 1.25 倍となっているのはなぜか。
姫路獨協大学	細かいところは私も存じ上げないので、必要があれば聞いておきたい。
委員	質問は 2 点ある。資料 1 別冊 24 ページの下段で、例えば人間社会学群や医療保健学部の学生の居住形態を見ると、自宅生より下宿生が多いことが分かるが、実際に姫路獨協大学に目を向けている学生は、どこの地域が最もターゲットとして考えられるのか。また、ターゲットとする地域のどの高校が比較的多く、高校に対するオープンキャンパス等どのようなアプローチをしているのか。

姫路獨協大学	<p>広報活動については、県内すべてをターゲットとしている。特に、姫路周辺は教職員による重点的な高校訪問等で入試の情報を周知している。在学生がいる高校については、それを大事に次につなげるということで、さらに特別なターゲットとして訪問している。</p>
会長	<p>入学希望者あるいは入学者の出身地の調査は、当然されていると思う。30年間でどのように変化し、主には姫路市やその周辺、兵庫県、隣接地域などで、少しずつ変化していると思われるが、その辺りの考えはお持ちか。</p>
姫路獨協大学	<p>学部によってそれぞれ変わりはある。やはり兵庫県、特に姫路を中心とした、西播磨、東播磨、北播磨はもちろん多いが、その次に多いのが、兵庫県全体である。特に神戸周辺からは、それなりの学生が来ている。その次は大阪で、あまり多くはないが鳥取、島根、あるいは四国からも少なからずは来ている。それに関する資料が必要であれば、作って提出する。</p>
会長	<p>文系から理系主体へ学部の形を変更してきているので、その影響を踏まえ、関西地方の人口の多いところ、あるいは中国地方、四国地方、ロケーションに合わせた分布が認められるという回答であった。非常にロケーションが偏っている地域でしか、広報活動がなされていないという認識を持った。</p>
委員	<p>資料1の「2. 広報活動の実績」で、高校訪問は令和2年度にかなり減少しているが、オンラインを活用した説明会、相談会、あるいはオープンキャンパスなどといったことは、令和2年度、令和3年度に実施されたのか。</p>
姫路獨協大学	<p>事前にご登録いただき、午前はWEB、午後は対面によるオープンキャンパスで模擬講義等を行っている。コロナ禍で、県外の高校には訪問を断られることが非常に多かったため、高校訪問の数が激減している。</p>
委員	<p>電話やオンラインで実施された件数は、この資料の中には入っていないので激減しているということか。</p>
姫路獨協大学	<p>資料の数字に含まれているが、WEBによるオープンキャンパスの集客はなかなか難しく、意外に参加いただける方が少なかった。</p>

委員	オンラインもうまく活用すれば、非常に広がりがあると思う。
副会長	資料1別冊24ページの図表13によると、在住地域別・居住形態別の学生数は各学部によってかなり違うということだが、インスティテューショナルリサーチ（大学機関調査研究）はどれぐらい実施しているのか。その結果を踏まえて、出張講義等を実施しているのか。
姫路獨協大学	高校訪問の時には報告書を一元管理し、情報を全員で共有している。訪問時には全学部の説明をさせていただく。もちろん、医療系の学部の開設前後はその学部だけで広報活動をするが、学部の分布に応じた訪問はできていない。
会長	ハイブリッド開催の学会ならば、WEB視聴には現地集合の10倍以上の方が集まるのが普通であるが、それが非常に少ないということは、対応の仕方等が問われるのではないかと思うが、学会とは本質的に違うとお考えか。
姫路獨協大学	本学でも学会を実施したことがあり、その時には多くの会員の皆様に参加していただいた。有名大学であれば、皆さん関心があるので参加されるが、レベルとして、我々の大学が認知されていないということは、これから分析していかなければならないと考える。
会長	ご報告いただいた広報活動や奨学金支援の実績は、他大学と比較すると、どの程度のものであるのか。
姫路獨協大学	高等教育奨学支援の受給実績としては、学生の1割程度で、平均よりも多いと考えられる。このほかにも本学やその他の奨学金を受給している学生もいる。
委員	広告費の推移を見ると、毎年変わらず一定の金額が支出されている。企業であれば、費用対効果を確認してその経費を使っていくが、現実には受験者数と入学者が減る中で、例えば、この年はWEBを強化、またある年は何かに特化するなど、翌年の志願者数の変化等を分析した上で広告費を支出しているのか。それとも毎年これぐらいであるからという理由で、データもとらずに毎年同じように支出しているのか。

姫路獨協大学	<p>広報費については、本学の教育研究経費の予算の枠内で精査し、あまり効果が出なかったものについては次の年には廃止し、他の手段を検討している。看板や印刷物で変化があるのは、募集の増加に繋がらなかったと判断したものについて廃止した結果である。</p>
委員	<p>広告費の中で一番多いのは受験雑誌とWEB企画だが、効果があろうがなかろうが一定の金額をずっと出し続けている。経営側から見ると、ここにこれだけの金額をかけても受験者数が増えないならば、効果がないという判断をする。</p>
姫路獨協大学	<p>受験雑誌については、周りの大学はあるのに姫路獨協大学だけ掲載がないと、どうしてなのかということになるし、受験生に知ってもらえない。受験生のサイドから見れば、ないものとして認知されてしまうのでそれは避けたい。まずは認知をしていただくため、やめるわけにはいかない。</p>
委員	<p>それについては承知した。しかし、広告費を使うにあたって、PDCAサイクルのプラン・ドゥーまで出しておいて、その後のチェックとアクションがないのではないか。また、高校訪問では、やはり直接行って説明をしたり、説明会を開いたりというのは一定の効果があると思う。顧客と対面で話をすることは、WEB会議や電話だけよりは効果があると思うが、コロナ禍以前から減少しているのは気になる点だ。</p>
会長	<p>他の大学から見て、奨学金の受給者が全体の1割というのは、どう評価したらいいのか。</p>
委員	<p>私立大学にとって奨学金の置き方は、最も大きな戦略であり、経営者の考え方である。全額か半額か3割、さまざまな奨学金を工夫しながら、状況を見ながら、毎年毎年打っていく戦略なので一般論や答えはないと思う。</p>
委員	<p>大阪、兵庫、関西圏の他大学に競合学部がある状況で、特徴を出していないと定員割れが続く可能性があると思う。周辺地域で他の大学の同一学部も同じように定員割れを起こしている状況があるのか、そしてどう分析しているのか。</p> <p>また、経済波及効果は、生じるメリットだけでなく、学生を失うことによる損失額もある。本来はあるはずだった経済効果が、実際は定員割れをしたため損失した</p>

	<p>ことについて、どうお考えなのか。</p>
姫路獨協大学	<p>周辺地域の定員充足状況については調査しているが、手元にはないので必要ならば次回ご説明したい。2つ目の経済波及効果については、必要であれば準備させていただきたい。</p>
委員	<p>データについても「全国消費実態調査（姫路市）」の平均値を使われているが、人数が結果の数値を大きく左右する可能性があり、本学ならではの数値を使って試算する必要があるのではないかと。</p>
姫路獨協大学	<p>可能であれば修正等したいので、ご指示いただきたい。</p>
会長	<p>(2) 薬学部を取り巻く国の動きと姫路獨協大学薬学部の現状について 摂南大学薬学部河野武幸教授からの説明を求める。</p>
河野教授	<p>資料2「薬学部を取り巻く国の動きと姫路獨協大学薬学部の現状」について説明</p>
会長	<p>私学の薬学の現状について詳しくまとめていただいた。コロナ禍を経て、WEBなどを使った薬の説明など、新しい時代が来ると言われており、MR（医師等を訪問し医薬品の情報を提供する医薬情報担当者）という職種は激減すると言われているが、私学の薬学部を出てMRになる方は少ないのか。</p>
河野教授	<p>MRはメディカルサイエンスリエゾンのような高度な業務にシフトしており、難易度の高い大学の卒業生がそういった業種に就職し、難易度の低い私学の卒業生は就職できないという状況である。</p>
会長	<p>必ずしも薬剤師がMRになっているとは限らない。コロナ禍の影響はあまり大きくないのか。</p>
河野教授	<p>MRはいなくても医薬品は流通することが分かったという意味で、コロナ禍の影響は結局大きかったと思う。</p>
委員	<p>最近のMRは、薬学部ではない国公立大学の理系出身の方が増えている。薬剤師</p>

	<p>がそんなにたくさんいるわけではない。</p>
会長	<p>おっしゃるように、理学部や農学部を卒業された方も少なくない。薬学部を出られて製薬会社に就職される方はだんだん減っているのが現状で、姫路獨協大学の将来については、考慮すべき事実であると考えます。</p>
委員	<p>資料 16 ページで、新設の公立大学に関しては充足率が 100%を達成したということであるが、都道府県で初めての設置とある。しかし兵庫県では、すでに複数の私立大学が存在しており、充足率の予測についてどうお考えかお聞きしたい。</p>
河野教授	<p>和歌山県立医大については、都道府県で初めての設置であるが、大阪と非常に近いので、大阪からの受験生がかなりいたと聞いている。ただ、そもそもは和歌山県に薬剤師をとという趣旨で設置されたので、15 人の県内枠を作られたと聞いている。</p>
会長	<p>公立大学と私立大学の薬学部で、取り巻く状況はかなり違うということを教えていただきました。私立大学の中でも順天堂大学のように、医学部もあり有力な大学以外は、大変厳しい状況にあるという理解でよいか。</p>
河野教授	<p>ただ、例えば、大阪薬科大学は大阪医科大学と合併して、大阪医科薬科大学になったが、それで志願者が増えたかという点では増えてはいない。難易度が上がったかという点では、残念ながら上がっていない。東北薬科大学が医学部を作ったが、結果同様であった。受験生がどこを見るかは、医学部があるかないかではなく、ブランド力が大きいと感じる。</p>
会長	<p>順天堂大学のようなブランド力がある有力な私学でないと、薬学部を順調に運営・教育していくことはなかなか困難な現状にあるというのが今日のご講演のサマリーである。</p>
河野教授	<p>また、需要と供給ということについては、病院薬剤師会に一度確かめてみる必要があると思う。</p>
委員	<p>薬学教育評価では、姫路獨協大は評価継続となった。74 校のうち 4 大学が評価継続で、4 年後に再審査を受けて適合している。カリキュラムや教員、職員、ガバナ</p>

	<p>ンス、いろんな問題があるので適合していないことをまずご承知おきいただきたい。</p> <p>資料の 28 ページに地域（リージョン）とあるが、ここで姫路をリージョンと捉えるのは疑問である。秋田と青森の 2 県で人口は 230 万人であるが、私立の薬学部が 1 つあるだけ。これこそがリージョンの問題で、姫路のように京阪神まで新快速で 40 分程度で行けるようなところは、リージョンの問題とは言わない。青森から秋田までは 3～4 時間かかる。そういうところでは、私立で残すか公立大学法人化すべきかというテーマはまさしく当てはまる。私立だと年間 200 万円の学費を集めても運営できないが、公立大学法人化すれば 54 万円で優秀な学生が集まり、やっつけていける。ただ、そういう問題に対して自治体と総務省が出動するかどうかは別問題である。大学を残すかどうかではなく、公立大学法人化すべきかどうかというテーマの中で、リージョンの問題があるから公立大学法人化するのかどうか真剣に議論しないとイケない。6 ページの 60 番から 64 番まで、兵庫県には 5 大学の薬学部があるが、定員を全部足すと 980 人になる。志望者 460 人の受け皿は十分あり、残す必要があるかどうか。さらにそれを公立大学法人化すべきかどうかは、もっとハードルの高い問題になるはずである。</p> <p>薬学部だけ抜き出しているが、一体的な公立大学法人化ではないのか。後で出てくる財政シミュレーションは、4 学部のシミュレーションであるのに、実際は薬学部だけ残すつもりなのか。</p> <p>(3) 全国の私立大学の事例について</p> <p>事務局 資料 3 「全国の私立大学の事例」について説明</p> <p>会長 大変広範な情報をまとめていただき、譲渡と廃校と公立大学法人化という 3 つの条件についての情報を他大学の例を含めて報告いただいた。この報告はどんな情報を調査されたのか。偏った情報にはなっていないか。</p> <p>事務局 あくまで一般論をまとめており、情報として偏っているとは考えていない。</p> <p>委員 資料 3 の 5 ページの基準財政需要額に対する設置者負担額の割合のグラフを見ると、110%以上を投じられている大学が 7 割近くを占めている。言い換えれば、これがいわゆる地方公共団体の持ち出しであり、公立大学の赤字を地方公共団体が代わりに財政負担している大学が全体の 7 割を占めていることが分かる。この状態に</p>
--	--

事務局	<p>陥りやすいタイプの大学はどういうところなのか、大学の内訳やその分析等があれば教えていただきたい。</p> <p>ファクトブックには大学名までは出ていないので、どういった大学で持ち出しが多いのかは分からないが、文系は普通交付税の設定単価が非常に低いので、地方公共団体の持ち出しがかなり多い。逆に、理系の方は高く設定してあるので、文系よりは経営的にうまくいっているケースがあるのではないかと見ている。</p>
委員	<p>地方交付税予算については、ここ 10～20 年で 14～20%減るという話が財務省と総務省で出てると聞いているが、実際のところ、どう予測すればいいのか。</p>
事務局	<p>国の動きは、はっきりと分からない。今の減少傾向が続いていくと仮定してシミュレーションを行いたいと考えている。</p>
	<p>(4) 財政シミュレーションの前提条件について</p>
事務局	<p>資料4「財政シミュレーションの前提条件」について説明</p>
会長	<p>教育には人件費が必要最低限かかるという中で、姫路獨協大学の側から第1回の審議会で、教育スタッフ、人件費の削減に努めてきたという説明があったと思うが、この前提条件の人件費は、公立大学の平均的な人数で算定されるということで、人数は現状より増えると考えていいのか、それとも現状維持か。</p>
事務局	<p>現在の人員でも大学の設置基準は満たしているが、今後、魅力ある教育を提供するという観点から、公立大学の平均的な人数を目指して増やしていく試算としている。なお、現状の人員のままのシミュレーションも含めて、数パターンのシミュレーションを検討している。</p>
副会長	<p>公立大学法人化を考えると、大学院の設置をすぐに考えることになるが、ものすごく費用がかかる。その辺りはどういう形でシミュレーションに反映されるのか。</p>
事務局	<p>今のところ学部学科構成については現状のままで、大学院についても今の状態でシミュレーションを行う予定である。</p>

会長	<p>教育の充実という段階では大学院の設置ということは出てくる問題だが、現状のシミュレーションも最低限必要である。</p>
委員	<p>損益計算書P Lと貸借対照表B Sを見た時、B Sがかなり反映されていないと思う。減価償却費について、この先の施設等の老朽化対策費が一切反映されていない。また、費用について教員数も学生数も少ない状況であれば、費用も過小評価されやすいので、その辺りも前提条件として確認しておきたい。</p>
事務局	<p>改修経費等については、4の費用の前提条件の施設・整備関係支出に記載しているが、姫路獨協大学の施設の多くが30年以上経過しているため、国交省の修繕単価等を用いて大規模改修費を算出したシミュレーションと、含めないシミュレーションの両方を提示したいと考えている。</p>
委員	<p>このシミュレーションは何のためにするのか。公立大学法人化する判断の根拠にするのか。それならば、薬学部等さまざまな検討をしてきた要素が全く加味されない財政シミュレーションをして意味はあるのか。薬学部における充足率26%、国家資格合格率43%という状況が、単に公立大学法人にしたからといって回復する保証は全くない。今の教育の質が悪いのか学生の質が悪いのか、全くアセスメントはされていないが、今後本当に公立大学法人化するかどうか、財政負担がどうなるかと考える場合には、現状の数値だけではなく、例えば薬学部の定員を下げる等の選択肢がないと判断の根拠が全くなくなってしまう。</p>
事務局	<p>シミュレーションによって、市の負担がどれぐらい発生するのかを示したい。教育の質については、教職員の数が一番ポイントになってくると考えており、一般的な公立大学で必要となる人数も併せて示し、教育の質を上げるためにはこれぐらいの費用が発生すると比較衡量できるように示したい。</p>
委員	<p>どれぐらい市が負担することになるのか、それによって公立大学法人化するかどうかを市も判断しないといけない。概算を示すだけでは全く意味がない。</p>
事務局	<p>委員の皆様にも市の持ち出しがこれぐらい発生するというのを見ていただき、その上でご意見をいただきたい。</p>

委員	シミュレーションは一つでは全く意味がないので、いくつか提示してほしい。
事務局	3パターンを用意する予定である。現状の教職員数を維持したパターンと、教員数だけを公立大学の平均レベルまで引き上げたパターン、教員数と職員数を公立大学の平均まで引き上げたパターンの3つで検討する。
委員	教職員のことだけで、学部の状況を踏まえたシミュレーションが全くない。
事務局	学部の状況については、特に決まったものがないため、現状を維持したシミュレーションを行いたい。
委員	今日、薬学部の現状の説明があったのはなぜか。
事務局	薬学部については定員充足率が低く、非常に課題があると認識しているからである。
委員	現状に対してどう対処するか考えるのがこの審議会ではないのか。例えば定員充足率が非常に低い場合に市の負担はどのくらいになるかなど、シミュレーションに反映しないのか。
事務局	他の公立大学法人では定員を充足しているので100%でシミュレーションを行いたい。
会長	薬学部について代表的な例として議論をしたが、他の学部も公立大学法人化で同じような改善が得られるかどうかは分からない。次回までに参考値の一つとして示していただきたい。
委員	シミュレーションで一番大きいのが人件費と修繕費。人件費は年齢によって大きく異なるので、現状の年齢構成を反映するべき。他の公立大学の給料ではなく、現状を踏まえたシナリオを作らないと意味がない。修繕費を5億円つけるか10億円つけるかでも全然違う。しかも30年後、地方交付税がどれくらい減るか、それも考えないといけない。予見について、あらゆる条件をここで提示して、ゴーサインを出してから実施すべき。そういう前提なしで乱暴なシミュレーションをすると、

	公表された数字は独り歩きするし、市民の誤解を招く。
事務局	(5) アンケートの取り扱いについて 資料5「アンケートの取り扱いについて」説明
会長	シミュレーションには経費がかかるのか。
事務局	このシミュレーションの実施にあたっては、専門業者に委託して作成している。
委員	いろんなパターンを作成するよう、仕様書に加えていただきたい。
事務局	できるだけ現状に即して作成したい。充足率については、例えば基本は100%として、薬学部が80%だったらどうするのかという場合、その分の交付金は減るので、基準さえ決めておけばイメージしていただきやすいと考える。充足率はまた別の問題であり、できるだけ現状に即して作成したい。
委員	定員数を下げれば、掛け算して地方交付税が計算できる。充足率は100%で計算すればいい。
副会長	人件費だけを変えたシミュレーションをして意味があるのかということだと思う。また、公立大学も修繕費を積んでいかないと改修できない。大学をどういう形でシミュレーションをするのが正しいのか。今のままシミュレーションするのが正しいのかどうか、改めて考えていただきたい。結果が出れば数字が独り歩きしてしまうので、慎重に進めていただいた方がいいと考える。
委員	地域の皆さんとともに大学を作ったときの情熱が今はないのではないのか。地域の意見は聞かれたのか。大学ができたことによって住宅が建ち、地域は活性化したが、その方たちが今現在、大学の存続についてどう思われているのかが一番大事ではないのか。私としては、過去の経緯もあり、何とか継続したり、公立大学法人化で子供たちが増えたりしたらいいと思いながら聞いていた。今の状態のままでは学力が低い、しかし今の職員はそのまま、体制もそのまま名前だけ変えるのでは、全く進歩しないのではないのか。たった1,800人しかいない生徒たちが、どこの県から来ているかさえ集計できてないというのは考えられない。そこが今の大学の体制を表し

<p>会長</p>	<p>ている。根本的にしないといけない労力をせずして、コロナ禍で県外には説明に行けないから志願者数が少ないという言い訳をしているように感じた。</p> <p>来年度の入試はもうスタートしており、この審議会がそれに与える影響も認識する必要がある。この審議会は今年度中に一つの方針を出すことを目的に活動しているが、私はできれば加速した方がいいと考えている。しかし、シミュレーションについてさまざまな問題が指摘されている。</p>
<p>委員</p>	<p>9月に行われた市議会の委員会で、公立大学法人化した場合、市にどれぐらいの負担がかかるのかという議論があった。それも踏まえて一定のコストを出すということだと思うが、皆さんのおっしゃられることは非常によく分かる。良い教員をお招きし学生たちにいい教育ができる状態を作ろうと思うと、当然コストが掛かってくるのは間違いないことだと思う。ただ、最初の判断基準として、定員を充足した状態でも地方交付税以上に市が負担しなければならないのかどうか。7割の大学において地方交付税以上に費用が掛かるため自治体が負担している状況であり、前回は話が出たように、小学校や中学校、高等学校の教育費が削られてしまうのではないかとこの話に繋がってくると思う。公立大学法人化するのであれば学部に関する議論は当然必要だと思うが、いったん地方交付税内で運営できるのかどうか考えてみて、その上で学部に関する議論をしていく形にしてはどうか。一旦ベースとしてシミュレーションするという事だと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>今後の審議会の進め方だが、論議の時間も限られているので、今後必要があれば、書面による資料要求と質問を提出してもよいか。</p>
<p>会長</p>	<p>それは構わない。問題があるか。</p>
<p>事務局</p>	<p>書面で提出いただければ、お受けする。</p>
<p>会長</p>	<p>書面でもらっていい。</p> <p>公立大学法人化、私学のまま、あるいは廃校という3つの大きな選択肢の中で、シミュレーションは一定の参考になる。この1ヶ月間でできるのかどうか分からないが、シミュレーションを行うことに関してどう考えるか。</p>

委員	<p>不十分なシミュレーションに対して議論するのは全く無駄だと思う。今後どういう大学経営をしていくのか、市の方向性ありきで議論することではない。学生もいて、教員もいて、しっかりとした人材育成をするという目的で大学がある。市の負担がこれくらいであれば兵庫県第2の都市である姫路市の行政が負担して残すのか、残さないのか。それがものすごい額ならばやめて、少なければやってみるとか、病院の経営と一緒に、ある程度シミュレーションの曲線・直線がないと最終的にしっかりした判断はできない。仕様を今からでも変更して、例えば薬学部の定員を80人にすると、60人にするとどうなるか。少なくともいくつかのパターンがない限り、あまり議論する気になれない。</p>
事務局	<p>薬学部の定員について段階的に数パターン設定することを検討したい。</p>
委員	<p>シミュレーションの可否について委員と事務局がかみ合っていないまま強行するのか。最初から結論ありきという事務局のスタンス・運営の仕方が極めて不適切である。事務局が回答をしない、また必要なデータを出していないから議論が進まない。書面による質問をしてよいということになったが、それについては公表し、きちんと回答してほしい。</p>
会長	<p>現実的な方針について意見を伺いたい。今年の入試もすでに進行中であり、審議を加速したいと考える。第3回の審議会に関して具体的な提案はあるか。</p>
委員	<p>財政シミュレーションの結果、市の負担が巨額であるから廃校にするしかないとか、これくらいであれば姫路市の地方創生のためには必要な額であるから抛出するとか、それは市議会が決めることである。ただ、この審議会で姫路獨協大学の在り方を検討するにあたっては、現実に即したきちんとしたシミュレーションをしていただきたい。教職員数の3パターンだけでは在り方検討の根拠にならないと思う。低迷している薬学部など問題となる部分が明らかであるので、それについて様々なパターンを設定してシミュレーションを行うのであれば、この審議会での議論に値すると思う。</p>
会長	<p>限られた時間の中で様々なシミュレーションを行うのが難しいのであれば、会長・副会長と事務局がシミュレーションの内容・取り扱いについて詳しく協議し、審議会に図るという方針はどうか。</p>

委員	それには反対である。シミュレーションのプロセスは公開されるべきである。
会長	審議の引延は来年度の入試に極めて大きな影響を与える。審議を長引かせないための現実的な解決策が必要である。シミュレーションの取り扱いについて会長・副会長の議論に任せることはできないか。
委員	シミュレーションに関するタスクフォースを作り、そのタスクフォースの部会長が報告をするのがよい。また、それはシミュレーションを専門とする方がやるべきである。
委員	シミュレーションをするならば、この5年間のPLとBSを提示してほしい。最低でも5年間の推移を踏まえて公立大学法人となった場合を計算したい。本来は5年間赤字になるはずであったのが、運営交付金があつて結果として逆に黒字になる、これは運営交付金への依存度が高いという読み方もできる。そういったことを考えた場合に、現在の状況がどれだけ深刻なのか、学部別で提示する必要があると考える。学部によって赤字の度合いが違ふと考えられるので、PLとBSでどのくらい赤字とキャッシュがあるのか確認しなければ、今後本当に移行するとなるとすべてを姫路市が運営交付金の名の下で引き取るような事態になりかねない。
事務局	過去5年間のPLとBSを提示することは可能か。
姫路獨協大学	授業料収入等は学部別で出すことはできるが、事務経費が一括りになっている。各学部の人件費・設備整備費等は可能と考える。
委員	事務経費は教職員数で按分するとよい。
姫路獨協大学	按分するというのであれば、次回に提示できると考える。全体としての資料は前回提示したが、学部別の細かなデータはなかった。検討し、出せるものであればもちろん提示する。
会長	学部によってあまりにも状況が違うので、学部別のデータは、今後の姫路獨協大学の公立大学法人化を含めた在り方検討にあたっては非常に重要な情報である。 この委員の中から専門性を考えてタスクフォースを形成することに関しては、事

	<p>務局で考えていただきたい。</p> <p>4 その他</p>
事務局	<p>最後に事務局から提案がある。獨協学園からの公立大学法人化に関する要望書が提出された後、姫路獨協大学の事業譲渡について関心を持つ団体がある。相手方の了解が得られれば、次回の審議会に呼び、委員の皆様の説明したいと考えているが、どうか。</p>
会長	<p>譲渡について関心を持つ団体が出てくることは予想していたが、それは1団体だけであるのか、複数か。</p>
事務局	<p>1団体である。</p>
会長	<p>すぐには判断しかねるが、今の提案に関して意見はあるか。</p>
副会長	<p>公立大学法人化するか、事業譲渡するか、廃校にするか、選択肢は3つあったと思うが、事業譲渡については、相手方のあてがないのであれば議論する必要はない。もし1団体でもあるならば、どんな団体であるのかということは何うというのとは一つの判断かとは思ふ。</p>
会長	<p>姫路市側から見て、その団体の意向の度合いはどういったものか、妥当な資格であるのか、ブランド力はあるのか、そういった情報抜きでは次回の審議会での説明を何うのが妥当かどうかという判断ができない。極めて有力な候補であって、審議会の全委員の前で提案いただくに値するという判断を、姫路市として十分にしているということか。</p>
事務局	<p>しっかりした団体であると考えている。</p>
委員	<p>話が段階を踏んでないと思う。今3つの選択肢の議論をしている。公立大学法人化について協議し、これが難しいとなれば譲渡・廃校しかない。いきなり今議論の論点が変わり、譲渡の候補者がここでプレゼンをするなんて、余りにも乱暴すぎるのではないか。</p>

会長	<p>公立大学法人化・譲渡・廃校という3つの選択肢についての議論が今回であって、次の会議に譲渡の候補者に来ていただくというのは、少し時期尚早という感じがするが、譲渡の有力な候補として説明するというのは、もう少し議論が煮詰まった段階ではあり得ると思う。</p>
委員	<p>公立大学法人化の在り方検討会である。公立大学法人化についてまず結論を出さないといけないのではないか。この会の結論は4パターンであると考え、公立大学法人化、一部公立大学法人化、継続、廃校の4つである。譲渡は前提が違う。譲渡について云々というのは、審議会が終わってからであろう。</p>
事務局	<p>この審議会自体は在り方検討ということで、公立大学法人化も1つの選択肢、事業譲渡も1つの選択肢というふうに考えている。</p>
副会長	<p>私も最初は、公立大学法人化するのかしないのか、そのみを議論する会かと思っていたが、事務局の説明によると、選択肢は3つあるということである。しかし、いきなり譲渡の候補が1団体あるから説明するというのもどうかと思う。議論が飛び過ぎているということであれば、次回というのはそぐわないんじゃないかという気がする。</p>
委員	<p>普通は譲渡の相手方を募集し、何者かがプレゼンするものではないか。1者では選択できない。なぜちゃんとした順序を踏まずにこの審議会を進めないのか。審議会の前に進め方を座長と煮詰めてほしい。わかりやすく具体的に、ちゃんと筋の通った会議をしてもらいたい。資料を提供しない大学にも言いたい。それが出ないから議論が右行ったり左行ったりしているように思う。</p>
委員	<p>1回目の審議会での、広告と奨学金と波及効果についての質問に回答するのに2ヶ月かかった。こんな進め方ではまともでない。やり方を変えてほしい。だから私は質問を書くと言っている。</p>
会長	<p>早めていただくのも一つの方法かもしれない。第3回が来月というのは1回目の時から予定されていた。</p>
委員	<p>2ヶ月が1ヶ月になるだけだ。もっと効率的に議論を進めなければならない。そ</p>

	<p>のためにはもっと事務局資料が充実していなければならない。第1回でも言ったが、第三者による評価をきちんと行い、それで判断する。それがないから議論が戻るばかりだ。</p>
事務局	<p>譲渡の話であるが、もともとこの審議会ではゼロベースで議論していただくということで、姫路市が公立大学法人化を進めるためその是非を議論するということでは決していない。ただ獨協学園から公立大学法人化の要望があったので、まずその是非ということは前提としてはあるが、姫路市としてはゼロベースで検討していただくということで、公立大学法人化・譲渡・廃校の3つのパターンがある。そして譲渡については、獨協学園として譲渡を受けるかどうかということで、姫路市が決めることではないので、姫路市が公募するというものではない。</p>
副会長	<p>姫路市が公私協力方式で姫路獨協大学を作られたからこそ、この審議会があるのである。そういう言い方をされると皆さん納得できない。</p>
事務局	<p>説明がわかりにくく大変申し訳ない。公立大学法人化が無理な場合は、譲渡という選択肢もある。ゼロベースということで、それを同時並行で議論いただいている。</p>
会長	<p>これまでの2回の会議において、獨協学園の資料と、薬学部に関しての情報を提供していただき、ほぼ情報が出尽くしてきたので、さあこれから在り方について議論をしようという段階で、譲渡の候補をここに出すというのは、この会の意義に関して問題が起こるといふふうに考える。やはり公立大学法人化と公立大学法人化以外について結論を出す必要がある。</p>
委員	<p>この審議会は、公立大学法人化が難しいか難しくないか、それだけについて結論を出すのではないか。</p>
事務局	<p>主たるものはそうである。</p>
会長	<p>次回に譲渡の候補の方にここで提案をいただくというのは、やはり間違っていると考える。シミュレーションの問題に関しても検討し、第3回について至急に考える。譲渡に関してはもっと後にすべきである。獨協学園だけの問題ではなく、姫路市と獨協学園との今までの歴史を十分に反映した対応をしていただかなければ、こ</p>

事務局	<p>の審議会の基盤が非常に揺らいでいる。譲渡の問題は獨協学園の方だけの判断であるという認識でここに至っているとは思えない。獨協学園もそのように認識しているのではないか。</p> <p>本日は多くの意見が出たのでそれを踏まえて対応させていただきたい。以上で事務局に返す。</p> <p>次回の会議は 11 月 19 日の金曜日午後 1 時 15 分から、アクリエひめじにて開催する。</p> <p>5 閉会</p>
-----	---